

# 平成30年度 大宅中学校教育について

京都市立大宅中学校  
校長 中村季弘

学習指導要領や京都市の学校教育の重点の趣旨を踏まえた教育目標の設定

## 【学校教育目標】

「人、物、時を大切にし、志ある豊かな心を育み、  
確かな学力の向上を図る」

## 【目標設定の理由】

- 大宅教育の基盤を「生徒ありき、その前に人ありき」と捉え、生活の基本である自己・他者を大切にする心、物を大切にする心、時間を守り規則正しい生活を大切にする豊かな心を育みたい。
- 将来の自分自身の生き方について、自己実現の手段として、キャリア教育の推進、体験的教育活動の推進から学習へのモチベーションを高め、基礎的・基本的な学力のみならず、課題解決的な学習や探究活動を身につけさせるとともに、常に人のためにという心を持ち続けさせたい。

## ＜目指すべき生徒像＞

### ○ より良い生き方を考え、判断し、行動できる生徒

#### 1 笑顔であいさつができる生徒

わたしたちの生活の中で、最も基本となるものが「あいさつ」です。基本的な生活習慣が確立した、心身ともに健康で、元気な笑顔で挨拶ができる生徒を育てる。

#### 2 学習に集中できる生徒

1時間1時間の授業を大切にする生徒。家庭学習の習慣化が図れ、毎日の学習に集中できる生徒を育てる。「継続は力なり」。

#### 3 思いやりのある、いじめを許さない生徒

他者への思いやりを持ち、いじめをしない、させない、見過ごさない生徒を育てる。

## ＜目指すべき教師像＞

### 1 指導力の向上に努める先生

教師経験の多寡にかかわらず、自己研鑽、自己変革に努め、教師としての資質向上に努める先生。毎時間の授業を大切に「授業のめあて」「振り返り」を提示し、自らの指導力の向上に努める先生。

### 2 生徒、保護者に丁寧な対応ができる先生

一人一人の生徒の家庭環境や保護者の思いなどはさまざまであるが、生徒や保護者の思いをしっかり受け止め、大宅中の教師としての思いをしっかり伝えることができる先生。生徒たちだけではなく、保護者との人間関係構築に努める先生。

### 3 教職員体制（チーム）を意識して行動できる先生

我々教師の仕事は、学年や教科、分掌など、常に複数の教員体制で普段の職務が遂行されている。教師一人で判断するのではなく、常に“チーム大宅”としての「報・連・相」を忘れず行動できる先生。

上記した目指すべき姿を具現化するためには、生徒も教師もともに切磋琢磨して努力する必要がある。

「元気なあいさつができる 時間を守れる 人の話がしっかり聴ける」を様々な場面、特に全校集会、学年集会、生徒会活動等で共通して指導にあたりたい。

また、われわれ教職員にとって、

あいさつ…人と人との交わすはじめの言葉です。

われわれ教職員も、朝の「おはようございます」に始まり、下校時の「さようなら」「失礼します」に至る挨拶を丁寧に行いましょう、生徒には元気よく、相手の目を見て挨拶しようと指導をしています。我々教職員も、生徒へ指導するだけではなく、教職員同士の挨拶もしっかりしたいものです。

来校者の対する挨拶もことのほか大切です。「ここにちは、御用は伺っておりますか?」「何先生に御用ですか?」等の声をかけることは、安全管理、危機管理の視点からも大切なことです。

あいさつは、生徒に育みたい力のひとつ「コミュニケーション能力」に関わることとしても大切で基本的な内容になります。我々教職員自らが、生徒に率先垂範していきましょう。

時間を守る…学校生活は集団生活です。時間を守ることは基本中の基本です。

生徒にも着ベル、5分前行動といったことを指導しています。われわれも、日々の授業や様々な場面において、時間を守るように意識していきましょう。

人の話しが聴ける…教師であれ、生徒であれ、しっかり人の目をみて話を聞くことは、とても大切なことです。

人が話しがしているときは、「聴く」という漢字に表されるている「耳十目十二」で、話を聞くことができる生徒の育成を目指し、われわれ教職員もそうあります。

#### ＜重点目標＞

##### 1 規範意識の育成

自他を尊重し、主体的に判断し行動できるとともに、権利と義務についての理解を深める。学校のきまりや社会のルールの遵守に向けた指導の徹底。

いじめや暴力等に対する毅然とした指導の徹底。

##### 2 「道徳の時間」の充実

全ての教育活動を通じて道徳教育の充実を図る。特に「道徳の時間」については、計

画的に指導を行い、人としてのよりよい生き方を探求する力、道徳的実践力を育成する。これまでの取組をさらに充実させて、「特別の教科ニ道徳」の評価についても研究を深める。

### 3 基礎基本の徹底と思考・判断・表現力等の育成

生徒が目を輝かせ、指導者の話す内容を食い入るように聴き、授業を生徒自らが作っていけるような授業展開を目指す。授業力の向上に努める。言語活動を重視した学習活動の展開による、思考力・判断力・表現力等を育てる。

各教科による自主的な公開授業、研究授業を実施する。毎時間の「**学習のめあて**」と「**学習の振り返り**」を徹底し、ノートの有効的な活用を意識して指導の共有化を図る。

### 4 生徒の困りに対する確かな支援

学習におけるつまずき、友人関係、部活動や家庭のことなど、日々の生徒への観察や情報収集を通して、生徒の変調に気付き、適切な対応を心掛ける。

## 平成30年度 教育課程編成における共通理解

### 1 年間授業時数1015時間の確保

50分授業を1015時間実施し、各教科の標準授業時数を確保する。

例年通りなどではなく、各行事などについて、それぞれの意義をしっかりと吟味していくことが大切。

### 2 生徒会活動の活性化

生徒の自治活動である生徒会活動の活性化を図る。

- ① 生徒会本部主催で実施する生徒集会。
- ② 生徒会本部が、年間を通して取り組む活動。
- ③ 全校生徒が一丸となって取り組める活動。

を通して、生徒の成長、自己達成感を高める。

### 3 「道徳の時間」を柱とする道徳教育の充実

道徳主任及び道徳教育推進教師だけではなく、全教職員で道徳の教材開発を行い全校体制で「道徳の時間」に取り組む。

学年で取り組む「道徳の時間」の学習教材については、学年（担任、副担任ともに）で検討し、指導にあたる。「道徳の時間」の研究授業・授業参観を実施する。「評価」についての研究・研修を深め、共通理解を図る。

#### 4 朝の読書指導と終わりの会（終学活）の充実

全ての教科に共通する読解力の向上を図るために、「朝の読書指導10分間」の徹底を図るとともに、朝の健康観察などの時間を守って実施する。また、生徒会活動の基本となる学級会活動の「終学活」を学年の共通理解の下、充実させる。

#### 5 「総合的な学習の時間」の年間計画と具体的実践

年間計画を学年全体で検討して具体的に作成し、その調整を学年分掌が掌握し、具体的な取組を実践する。

キャリア教育の充実：ファイナンスパーク学習（1年）、生き方探究・チャレンジ体験（2年）、修学旅行の取組（3年）とともに、ポスターセッションを活用して充実を図る。

＜その他＞

##### 1 学校祭体育の部（体育大会）の再興

15年ぶりの開催となった一昨年度の体育祭を今年度以降も実施し、充実した学校行事として定着させていく。そのため、全教職員で取り組み成功させる。

##### 2 学校運営協議会の設置

28年度末に発足した学校運営協議会を学校の応援団として位置づけ、大宅教育の充実を図る。

##### 3 働き方改革の推進事業

全教職員が協力して取組む

- ① 時間を意識した働き方の推進
- ② 業務の効率化
- ③ 業務の精選・適正化
- ④ 毎週水曜の統一時刻閉鎖日を設定

##### 4 「中学校英語授業改善」研究指定

- ① 小学校外国語科の内容を踏まえ、中学校での授業改善に取り組む。
- ② 技能を総合的に育成する視点から、GTEC for student を評価の指標とし、それに基づいた授業改善を進める。

##### 5 部活動のあり方について

- ① 週当たり2日以上の休養日を設ける。（平日は少なくとも1日、土曜日及び日曜日は少なくとも1日以上を休養日とする）  
※大会参加等で活動した場合は、休養日を他の曜日に振り替える
- ② 長期休業中の休養日の設定は、学期中に準じた扱いを行う。